

情報コーナー

第21回初秋ひたち能と狂言

とき 9月3日(土) 第1部:午前9時40分開演 第2部:午後1時開演

ところ 日立シビックセンター音楽ホール特設能舞台

内容 第1部:市内の能楽愛好者や団体の能楽発表 *入場無料

第2部:能「橋弁慶」笛ノ巻 観世鍔之丞(観世流能楽師)他
 狂言「酢薑(すはじかみ)」野村万蔵(和泉流狂言師)他
 能「邯鄲(かんたん)」鶴澤久(観世流能楽師)他

入場料 前売り: S席4,750円、A席2,850円、B席1,900円

当日: S席5,000円、A席3,000円、B席2,000円

*第2部のみ、全席指定、S席・A席のみ高校生以下1,000円引き

チケット予約・お問合せ 日立シビックセンター チケットカウンター TEL 0294-24-7720

ベビーシッターサービス 8月20日(土)までに日立シビックセンター1階チケットカウンター

または電話にてお申し込みください。(料金:1人1,000円)

主催:市民のための能を知る会実行委員会/公益財団法人日立市民科学文化財団



関連団体のイベント・活動を紹介するコーナー (2016年7月~11月) 一般参加可能は★印

主催	タイトル	日時	場所	問い合わせ先
日立市 日中友好協会	茨大工学部後期中国留学生新 入生歓迎会	10月中旬	茨大国際交流会 館(鮎川町)	090-2531-5444(白土)
フレンドリー あんず	料理教室(ラーメン他)	9月24日(土) 9:30	女性センター	0294-35-1151(今野)
	女性センター祭りでバザー ★	10月15日(土)	女性センター	0294-21-4150(福地)
	リンゴ狩り	11月上旬	中里	0294-35-1151(今野)
	外国人のための生け花クラブ	毎月1回 水曜日 10:00	教育プラザ	0294-21-4150(福地)
	日本語教室	毎週火曜日 19:00 金曜日 14:00	(火)女性センター (金)教育プラザ	0294-36-4542(半田) 0294-42-8176(金岡)
国際交流 ボランティアネット ワークさくら	日本語教室	毎週木曜日 10:00 土曜日 10:00	(木)教育プラザ (土)女性センター	0294-34-6257(臼井)
	ホームヴィジット・ホームステイ	7月~12月		
	さくらバザー ★	10月2日(日)	日立シビックセン ター広場	
日立ユネスコ 協会	日本食文化体験	9月11日(日) 9:30	会瀬交流センター	0294-35-6034(藤原)
	世界の料理教室 ★	10月23日(日) 9:30	会瀬交流センター	
カンボジア支援会	ふれあいの旅	11月3日(木)~9日(水)	カンボジア	090-4177-5393(菊池)

活動記録

(2016.4.1~7.15)

- ◆活動推進部会(定例会) 4/22、6/17、7/8
 - ◆広報部会 6/17、6/24、7/8
 - ◆記念事業ワーキングチーム打合せ 6/17、7/8
- <平成28年度会員152人
 活動推進部会30人、ワーキングチーム12人>

編集後記

え、私を書くのですか?とたん 頭の中真っ白、心臓ドキドキ。もともと編集後記とは読む物でしたから。いざ書くと何をもどきどきと思いついて、そんなある夜、満月を見た。そうだこの月は、東シナ海や南シナ海を照らしている。国は違えども笑顔は同じ、私達はアジアの民なのだ!ひたちとアジア。先達の後をワクワクして行きます!(田面木 記)

広報紙「ひたちとアジア」は日立シビックセンターホームページでも ご覧になれます。http://www.civic.jp
 連絡・問い合わせ・感想・入会希望等は、日立シビックセンター内「ひたちとアジアの文化交流をすすめる会」事務局まで

TEL 0294(24)7711 FAX 0294(24)7970 E-Mail salon@civic.jp

ひたちとアジア

第53号

2016年(平成28年)7月

発行：ひたちとアジアの文化交流をすすめる会 広報部会

平成28年度 総会開催

第6期3年目(設立19年目)の事業計画決まる



本年度のテーマ国
マレーシアの国旗

平成28年度「ひたちとアジアの文化交流をすすめる会」総会は、多くの会員が出席し日立シビックセンター5階において5月28日(土)に開催されました。

総会では、まず前年度の事業報告を行い、続いて、今年度の事業計画案について審議し、承認されました。また、当会が平成29年度に設立20周年を迎えることをふまえ、記念事業をぜひ開催したいとの意見でまとまりました。

具体的には、① コンサートの開催 ② 20周年記念誌の発行 ③ 当会の活動説明パンフレット作製等とし、ワーキングチームにて検討いたします。

「ひたち国際文化まつり」については、参加団体からの日程を早く決めてほしいという要望をふまえて、11月13日(日)に決定しました。なお、来年度以降については、11月の第二土曜日の開催を原則とし、今後、関係団体と調整することとしました。

テーマ国は、インド・インドネシア・ウズベキスタン・マレーシア・ラオスの5ヶ国から選定することになっておりましたが、様々な意見が出され、最終的にマレーシアに決定しました。マレーシア人について、日立市には、昨年12月現在33の方が居住しています。また、茨城大学工学部には約20人、筑波大学には約40人の留学生が在籍しています。こういった方々との交流も含め、マレーシアとの文化交流活動を行います。

総会終了後、「もっと知りたいフィリピン～日本から見た社会と文化」と題し、筑波大学鈴木伸隆准教授による講演会が行われました。

講演会終了後の懇親会には、お話をされた鈴木先生も参加され、挨拶の中で、当会の日立市における国際文化交流活動について、高い評価をいただきました。

平成28年度事業運営計画

事業部会

① アジアの文化交流に関するイベント企画

アジア諸国の文化紹介事業や、会員及び多くの市民異文化に関する理解を深める事業を企画、開催

・講演会、外国人との交流の集い、研修見学事業他

② ひたち国際文化まつりの開催

「第14回ひたち国際文化まつり」への参画。国際交流関連団体や在住外国人と連携して開催

・開催日：メイン日 11/13(日)

展示期間 11/8(火)～11/13(日)

③ 記念事業の企画

当会設立20周年(平成29年度)を記念した事業の開催について検討、企画

広報部会

① 広報紙の作成

広報紙作成を通してアジア諸国の情報や、当会の活動を発信(年3回発行予定)

② ホームページ運営

ホームページを利用し、より多くの人々への情報発信を積極的に行っていく。



総会後開催された講演会(次ページ参照)風景

講演会「もっと知りたいフィリピン～日本から見た社会と文化」開催

講師 筑波大学 鈴木伸隆准教授

5月28日(土)「ひたちとアジアの文化交流をすすめる会」総会終了後、筑波大学人文社会学系 鈴木伸隆准教授による「もっと知りたいフィリピン～日本から見た社会と文化」と題した講演会が開催されました。

講演内容は、日本とフィリピンとの関わり、フィリピンの社会と文化など多岐にわたり、主に以下のお話がありました。

日本とフィリピンは500年以上もの長い交流があり、近年では、日本から年間約50万人が渡航し、シニア世代の定年後、移住や若者の英語学習渡航が増えている。一方、在日フィリピン人も増加している。2000年以降は年間約20万人が来日し、経済連携協定により介護士や看護師が労働市場へ参入するほか研修生も急増している。日立市には現在、技能実習生等426人のフィリピン人が在住している。フィリピンの生活から見た特徴は、高い出稼ぎ率、低い自殺率、低い貯蓄率、高い親日度が挙げられる。平均年齢23歳(日本46歳)とフィリピンは高齢化知らずの若い国である。「く

に」のかたちとしては、島数7109を誇る多民族・多言語国家であり、スペイン植民地支配以前は統一国家不在であった。そのため国や法律は支配者のため

のものという強い警戒心が根強く、家族を中心とした日常生活をおくっている。また、社会的弱者にやさしく、異なる文化も受容する寛容さを持ち、相手の状況に自らを適合させる高い異文化適応力も持っている。

これらの興味深いお話に参加者は耳を傾け、90分があつという間に過ぎるほど充実した時間でした。

講演会終了後に行われた当会の交流懇親会にも鈴木准教授に御出席いただき、聞き足りなかったフィリピンについて、参加者それぞれが質問し、楽しく交流を深めました。先生には今回の講演に感謝するとともに、今後の御活躍を祈念し、今後も当会と末永くお付き合いいただきたいと思います。



筑波大学 鈴木伸隆准教授

「ひたちとアジアの文化交流をすすめる会」と、日立市内の国際交流関連団体との交流記録 2015年11月～

◆日立一高御礼訪問 11/26 ひたち国際文化まつりでのイギリス・アメリカ研修旅行報告とスタッフとしてのサポートに対するお礼を目的に訪問。多くの人前でプレゼンを行うなど教育効果も多々あり今後も協力可能との回答。

◆茨城大学工学部外国人留学生・地域団体交流懇談会参加 1/28 茨城大学の外国人留学生は全学で約300人、その内工学部は130人。国内の少子化を踏まえ留学生を増やしたいという意向。留学生代表による体験談発表等の交流会に続き、交流会参加者と留学生との立食懇談会が行われ、交流を深めました。

◆茨城大学国際シンポジウム参加 2/3 ホテル テラス ザ ガーデン水戸にて開催された茨城大学が主催する国際シンポジウム「茨城とベトナムのこれからの関わりを考える」に参加。

◆春節祭2016に参加 2/7 日立市日中友好協会が日立市民会館で開催。参加者は100人以上。立食で餃子・寿司他飲食物多数。留学生のカラオケやじゃんけん大会で盛り上がりました。

◆茨城大学工学部留学生との懇親会開催 2/16 茨大工学部留学生・チューター、日立市民活動課、日立シビックセンター交流事業課、成沢交流センター、ひたちとアジア有志にて開催。

◆さくら25周年第29回さくら講演会参加 2/27 日立シビックセンターにて開催された「知りたいシリア・アラブ共和国」と題する講演会に参加。講師は筑波大学院生のナーヘド アルメリさん。聴講者多数で興味深い話でした。

◆茨城大学工学部留学生歓迎会参加 5/27 成沢交流センターにて開催。参加者は新人留学生・チューター・一般参加等全体で30～40人位。グループごとの自己紹介の後、ジェスチャーゲーム・手巻き寿司パーティーなどで盛り上がりました。

◆日立市日中友好協会総会参加 6/11 日立シビックセンターで開催された総会に出席。40～50人位の参加。発足20周年とのこと。2015年活動報告と2016年活動計画等審議後、会員である滝口亮さんによる「日本人にもっと知って欲しい中国のイロイロ」と題する講演は、とても興味深い内容でした。その後場所を1階飲食店に移し懇親会開催。

懇親会での
楽しそうな集合写真→



カンボジア通信 第3シリーズ NO. 6

元青年海外協力隊（理数科教師）・教育開発コンサルタント 浅水 伸介

浅水伸介さんは、茨城大学卒業後カンボジアに渡航し、子供達の理数科教師として活動しています。今回は、カンボジアの経済成長と環境保全について寄稿いただきました。

「お金が欲しいからと言って、遺跡にある森林を切り倒す事は良いことでしょうか。」

「森林伐採によって、森に生息している多くの生物が棲みかを失う事になってしまいます。」

「それだけではなく、森は洪水や土砂災害から私達を守ってくれています。」

「森から得られる恵みを失うと、私達人間の生活にも悪影響が出ます。」

カンボジアにはアンコールワットやプレアピヒアという有名な世界遺産があります。これらの他にも世界遺産登録を目指す歴史的価値の高い遺跡があちらこちらにあります。その一つ、ソンボープレイクック遺跡は、首都プノンペンとアンコールワット遺跡があるシェムリアップ州のちょうど中間地点、コンポントム州にあります(首都からバスで4時間程度)。カンボジア国観光省の要請で、この地域の振興に関わる活動を行っている JICA シニアボランティアの方、同州観光局に配属されている JICA 青年海外協力隊員の方々と共に、この遺跡がある村で環境教育イベントを行いました。私は講師として、村の子供から大人に対して、冒頭のような問いかけをしながら、自分達の身の回りにある自然環境をどのようにして守って行くべきかを考えてもらいました。まずは、身近にある遺跡や森林、河川がいかに素晴らしいかを実感してもらいました。次に、自分達の生活が近代化していくに従って、環境が悪化する様を日本的な紙芝居形式にして説明し、理科実験などを織り交ぜ、自分達の村の身近な環境問題からグローバルな地球規模の問題意識にまで話を膨らませました。皆、最新の携帯電話(スマートフォン)、オートバイ、綺麗な衣服やアクセサリを手に入れたいものです。しかし、それらを買いたいがため、或いは、目先の利益のみを考えるあまり、有限な資源を枯渇するまで取り続けてしまうと、後には何も残りません。森林が少なくなれば、地球温暖化につな

がる二酸化炭素の吸収量が下がりますし、森林を一度伐採してしまえば、再生するには非常に多くの時間がかかり、様々な悪影響が人間に降りかかります。多くの国内外からの観光客に来てもらうためには、ある程度の道路整備なども必要になってくるのも事実です。環境に配慮しながら観光ビジネスをバランス良く行っていく持続発展性という考え方が必要になります。経済成長が著しいカンボジアでお金が優先になってしまうことは仕方が無い事なのかも知れませんが、次代を担う子供達に是非伝えていきたいと思えます。

上記の JICA ボランティアの方々やカンボジア国観光省などの努力があり、遺跡の知名度は上がってきていると思えます。遺跡を訪れた人々が「来て本当に良かった」と、言ってもらうためには、遺跡の整備なども必要でしょうが、文化的な要素も人々を惹き付けると思われます。村の集会所で、クラシックコンサート、人形芝居、アプサラダンスなど、数々のイベントが JICA ボランティアや地元観光局職員達によって開催されています。今すぐにアンコールワット遺跡のあるシェムリアップ州のようにはなれませんが、ソンボープレイクック遺跡もまた、地元のカンボジア人達が大切に育てていけばいいのだと思います。それをお手伝いする我々日本人達は、皆に愛されるソンボープレイクック遺跡になってもらうように、地道に種まきをする活動をしています。そんな素晴らしい活動に関わられた事がとても嬉しいです。(2016年2月記)



実験演出中の浅水さん



遺跡散策中の集合写真